

2025 年卒
Vol. 05

3月1日時点の就職活動調査

キャリアタス就活 学生モニター2025 調査結果 (2024年3月発行)

2025年卒の採用広報が3月1日に解禁され、就職活動がいよいよ本格化した。企業の採用意欲が一層高まる中で、学生たちはどのようなスタートを切っただろうか。キャリアタス就活・学生モニターを対象に、解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行った。

1. 3月1日時点のエントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数は平均 21.2 社。前年同期 (19.1 社) より 2.1 社増加
- 今後の予定社数の平均は 9.5 社。前年同期調査 (10.7 社) をやや下回る

2. 会社説明会の参加状況

- 参加社数の平均は、オンライン形式 11.4 社、会場型 4.4 社。いずれも前年より増加
- まだまだ知らない企業はオンライン形式、応募を決めている企業は対面での参加を希望

3. 解禁時の志望業界

- 1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「インターネットサービス」。IT 人気堅調

4. 選考試験の受験状況

- ES 提出、筆記試験、面接試験とも約 8 割が経験。最終面接受験者は過半数に (42.7%→54.7%)
- ES 提出社数は平均 7.1 社。前年 (5.9 社) を上回る。面接は平均 4.6 社、最終面接は 1.5 社

5. 3月1日現在の内定状況 (※)

- 内定率は 43.2%。前年同期実績 (32.4%) を 10.8 ポイント上回る
- 内定企業の 7 割 (72.0%) が「インターンシップ等(※)参加企業」
- 内定取得者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは 26.6% (モニター全体の 11.5%)

6. 企業研究を行う上で知りたい情報

- 「実際の仕事内容」が最多。「社風」「給与水準・平均年収」「福利厚生制度」が続く
- 条件面に加え、「求める人材像」などエントリーシートや面接などを見据えた項目も上位に

7. 希望する初任給額

- 就職先選びで初任給を「重視する」学生は 8 割以上 (83.7%)
- 最低限必要な額は平均 22.1 万円、好条件・魅力的だと感じる金額は平均 27 万円

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

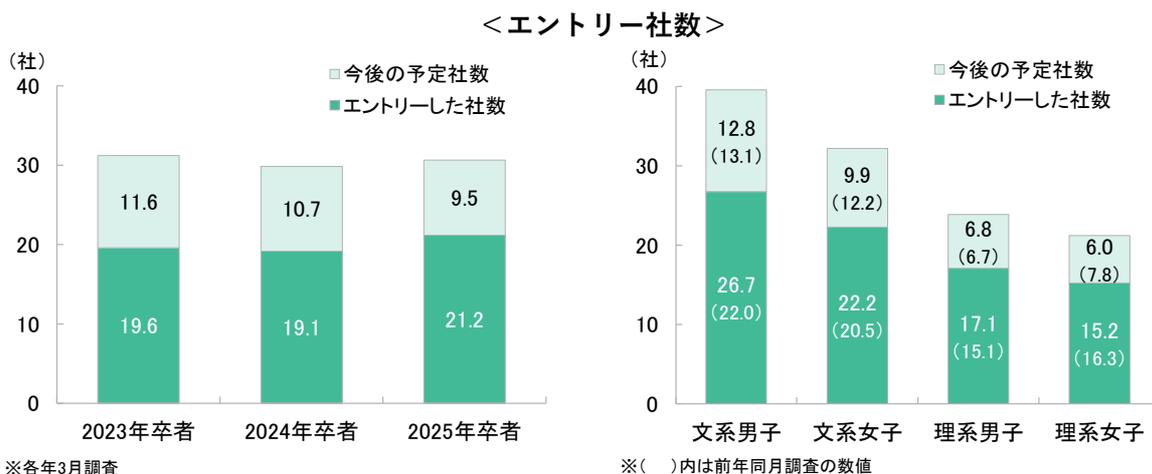
調査対象：2025年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,175人（文系男子290人、文系女子439人、理系男子280人、理系女子166人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2024年3月1日～5日
サンプリング：キャリアタス就活 学生モニター2025

1. 3月1日時点のエントリー状況

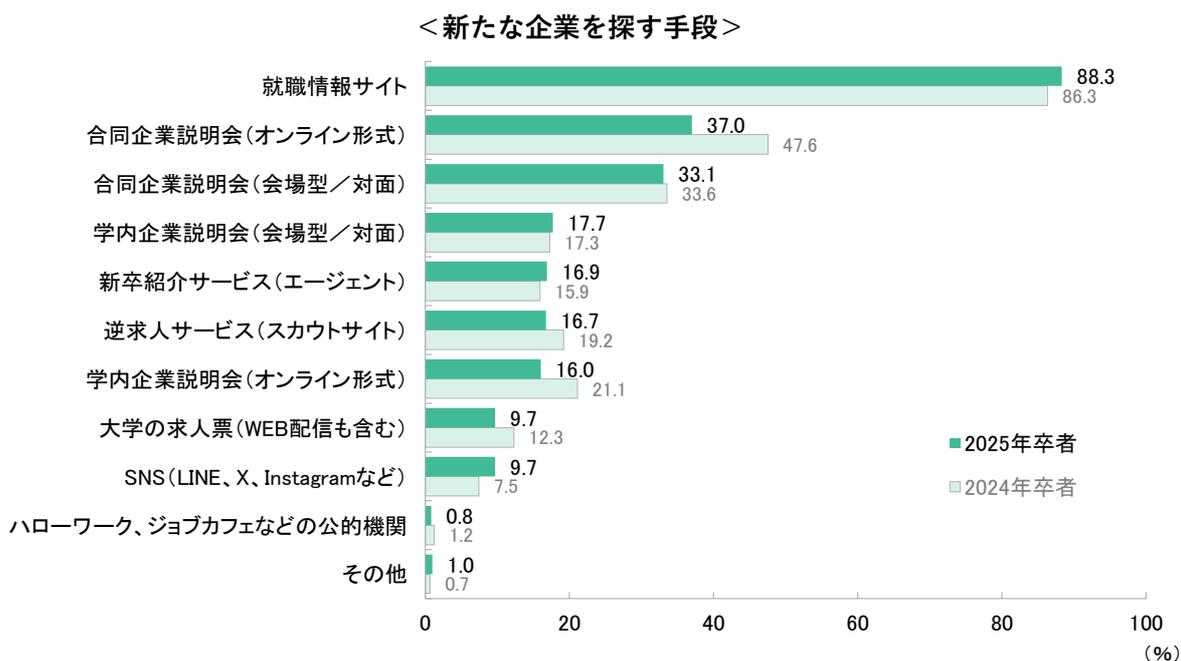
3月1日時点でエントリーした社数と、今後の予定社数を尋ねた。

一人あたりのエントリー社数の平均は21.2社で、前年同期実績(19.1社)を2.1社上回った。2年前(23卒)と比べても多く、3年ぶりに20社台になった。ただ、今後のエントリー予定社数は平均9.5社と、前年調査(10.7社)をやや下回る。足し合わせると前年並みの水準であり、企業を絞り込む傾向に変化はなさそうだ。

エントリー社数を文理男女別に確認すると、文系は男女とも20社を超え、今後のエントリー予定も理系に比べ多い(文系男子12.8社、文系女子9.9社)。

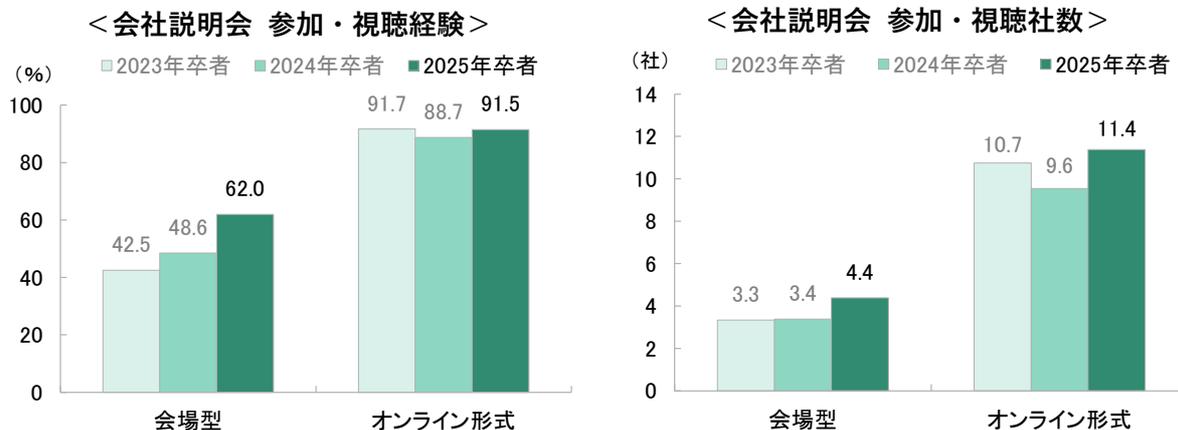


今後新たな企業にエントリーを予定している学生に、どのような手段(ツール)で企業を探しているのかを尋ねた。「就職情報サイト」が9割近くに上り、圧倒的に高い(88.3%)。ここに、「合同企業説明会(オンライン形式)」「合同企業説明会(会場型/対面)」が3割台で続く。合同企業説明会で話を聞いてからエントリーをしたいと考える学生も一定数いることがわかる。



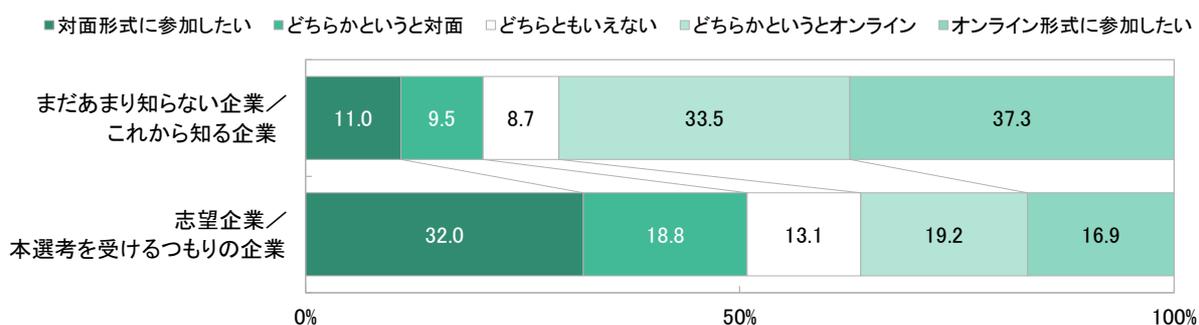
2. 会社説明会の参加状況

会社説明会（個別企業のセミナー）の参加状況を、開催形式ごとに確認した。コロナ禍により減少した「会場型」への参加が徐々に戻り、6割に上っている（62.0%）。「オンライン形式（WEBセミナー）」は全体の9割（91.5%）が参加経験を持つ。社数を見ると、会場型が平均4.4社で、オンライン形式は平均11.4社。



対面とオンラインのどちらの形式に参加したいかを、自身にとっての企業の位置づけ別に尋ねた。「まだまだ知らない企業／これから知る企業」については、「オンライン形式」を希望する学生が多く、7割に上る（計70.8%）。一方、すでに志望を固め本選考への応募を決めている企業については、オンラインよりも「対面形式」を望む学生が多い（計50.8%）。位置づけによって差が顕著にみられ、目的に応じて使い分けたい心情が表れている。

<会社説明会の参加希望形式>



■会社説明会に求めるものなど

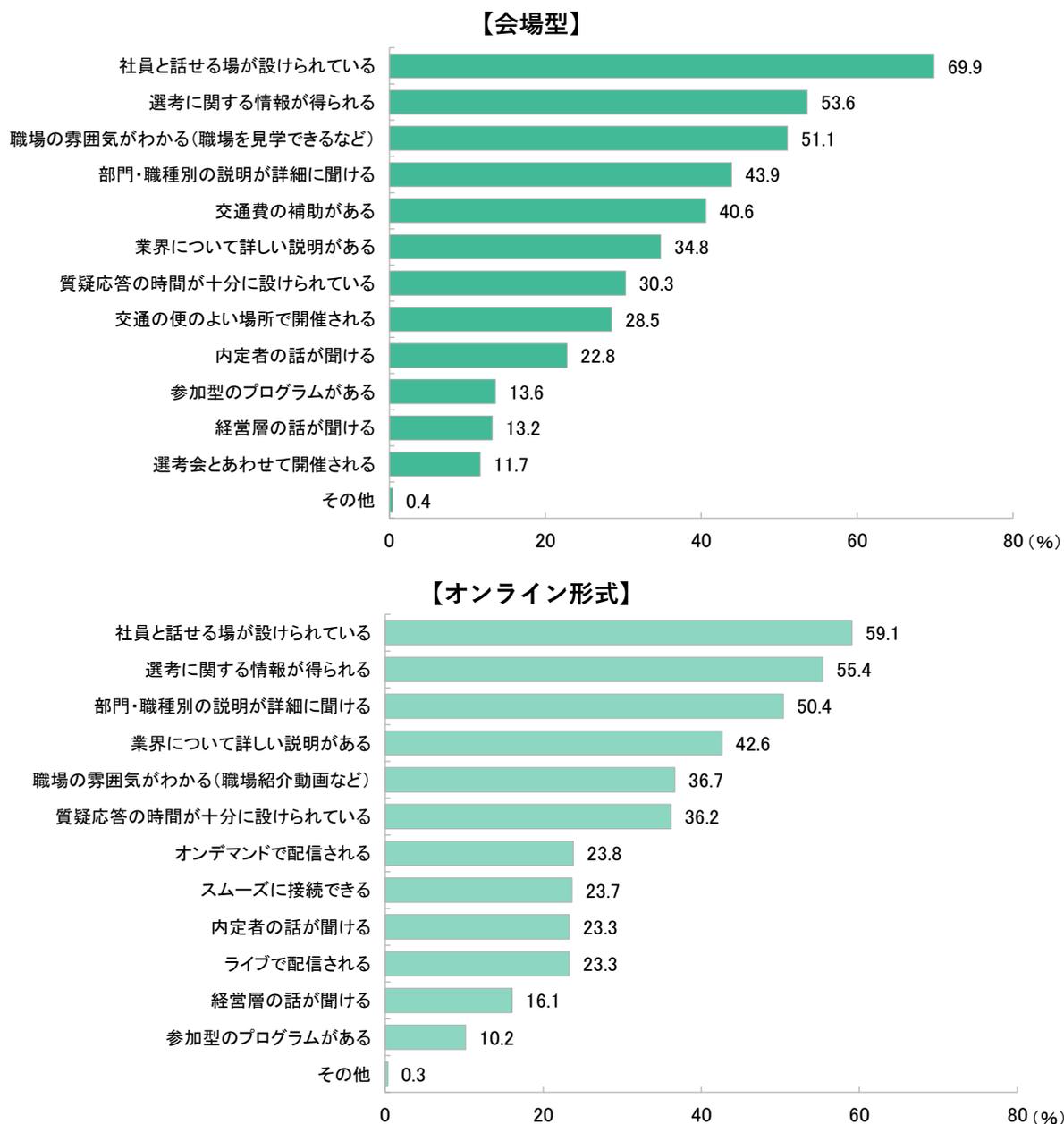
- 志望度の高いところは対面で参加したいと思うが、エントリー数を考えるとある程度絞らなければならない。その中で、WEB型は時間を有効に活用できるので積極的に利用していきたい。 <文系男子>
- 対面式の場合、本命企業を中心に参加したいため、特に選考につながるものがあると思っています。オンラインの場合は、あとから見返せるオンデマンド式があると助かります。 <理系女子>
- 対面では内容がリッチなこと、オンラインでは手軽さを主に求めている。 <理系男子>
- オンラインが多い中であえて対面で企画される場合は、体験型や社員との会話があるような双方向のコミュニケーションが取れるような会に参加したい。 <文系女子>
- 対面であれば雰囲気、オンラインであれば企業情報を詳しく知りたい。 <理系男子>
- 本選考を受けるにあたって有益な情報が得られるものであれば参加したいと思う。 <文系女子>

新たな企業の説明会に参加する場合に、どのような内容や条件のものに参加したいかを尋ねてみた。会場型で最も多いのは「社員と話せる場が設けられている」で、約7割に上る(69.9%)。オンライン形式(59.1%)より10ポイント以上多く、時間とコストをかけて参加するからには、ぜひ社員と直接会話したいと考える学生が多いことがうかがえる。また、「職場の雰囲気がわかる(職場を見学できるなど)」は3番目に多く、過半数が選択(51.1%)。実際に会社に足を運ぶことで、社風を感じ取ったり、働く姿をイメージしたりしたいのだろう。オンライン形式では「職場の雰囲気がわかる(職場紹介動画など)」を選んだ人は3割強だった(36.7%)。

一方、「業界について詳しい説明がある」は会場型(34.8%)よりもオンライン形式の方が高い(42.6%)。まずはオンラインの説明で業界研究をし、志望するかどうかを判断したいということだろう。

なお、オンライン形式は会場型に比べポイントが分散しており、学生によって求めるものが異なっている様子が見て取れる。

<参加したいと思う会社説明会(形式別)>



3. 解禁時の志望業界

3月の解禁時点で志望業界を「決めている」学生は88.3%。2月調査では80.0%だったので、この1カ月に8.3ポイント増加した。

「決めている」と回答した学生に具体的な業界を尋ねると(40業界から5つまで選択)、最も多かったのは「情報処理・ソフトウェア」(18.3%)で、次いで「情報・インターネットサービス」(16.9%)。IT業界はどの属性でも上位に挙がっている。

文理別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、男子で1位、女子で2位。特に文系男子は3割近くが志望しており(29.1%)、集中しているのが目立つ。文系女子の1位は「情報処理・ソフトウェア」。理系はメーカーが上位に並ぶ。理系男子は「電子・電機」が1位。理系女子は「医薬品・化粧品」「素材・化学」「水産・食品」の順。

<志望業界の決定状況>

| | 全体 | (前年全体) | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|------------|------|--------|------|------|------|------|
| 志望業界を決めている | 88.3 | 90.1 | 90.0 | 84.3 | 91.8 | 90.4 |
| 決めていない | 11.7 | 9.9 | 10.0 | 15.7 | 8.2 | 9.6 |

<志望業界(上位20業界)>

| 全体 | | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|----|---------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ② 18.3 | 銀行 29.1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.4 | 電子・電機 20.6 | 医薬品・医療関連・化粧品 30.0 |
| 2 | 情報・インターネットサービス ① 16.9 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 19.5 | 銀行 17.8 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 18.3 | 素材・化学 29.3 |
| 3 | 銀行 ③ 15.2 | 情報・インターネットサービス 18.8 | マスコミ 17.3 | 素材・化学 17.9 | 水産・食品 25.3 |
| 4 | 建設・住宅・不動産 ⑤ 13.6 | 調査・コンサルタント 18.4 | 情報・インターネットサービス 15.9 | 自動車・輸送用機器 17.5 | 情報・インターネットサービス 17.3 |
| 5 | 水産・食品 ④ 13.4 | 建設・住宅・不動産 16.5 | 水産・食品 14.3 | 情報・インターネットサービス 16.0 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.0 |
| 6 | 素材・化学 ⑨ 12.1 | 商社(総合) 13.0 | 官公庁・団体 11.9 | 建設・住宅・不動産 11.9 | 精密機器・医療用機器 15.3 |
| 7 | 調査・コンサルタント ⑥ 11.6 | 保険 11.1 | 建設・住宅・不動産 10.3 | 精密機器・医療用機器 15.2 | 電子・電機 13.3 |
| 8 | 電子・電機 ⑥ 11.2 | 運輸・倉庫 10.7 | ホテル・旅行 9.7 | 機械・プラントエンジニアリング 13.6 | 建設・住宅・不動産 12.7 |
| 9 | 医薬品・医療関連・化粧品 ⑮ 10.1 | 商社(専門) 10.1 | 商社(専門) 9.5 | エネルギー 13.2 | 官公庁・団体 10.0 |
| 10 | エネルギー ⑬ 9.8 | エネルギー 10.0 | 保険 8.9 | 調査・コンサルタント 12.1 | エネルギー 9.3 |
| 11 | 官公庁・団体 ⑧ 9.7 | 官公庁・団体 10.0 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 8.9 | 水産・食品 10.5 | ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 8.7 |
| 12 | マスコミ ⑩ 9.7 | 信販・クレジット・ファイナンス 9.7 | 商社(総合) 8.6 | 医薬品・医療関連・化粧品 8.6 | 調査・コンサルタント 8.7 |
| 13 | 自動車・輸送用機器 ⑪ 8.6 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.6 | 医薬品・医療関連・化粧品 8.4 | 運輸・倉庫 8.2 | 通信関連 6.7 |
| 14 | 運輸・倉庫 ⑪ 8.5 | 通信関連 9.2 | 運輸・倉庫 8.1 | 鉄鋼・非鉄・金属製品 7.0 | 自動車・輸送用機器 6.0 |
| 15 | 商社(総合) ⑭ 8.1 | マスコミ 8.4 | 教育 8.0 | 通信関連 6.6 | 運輸・倉庫 6.0 |
| 16 | 精密機器・医療用機器 ⑱ 8.1 | 水産・食品 8.0 | 調査・コンサルタント 7.6 | 農業・林業・鉱業 7.6 | 機械・プラントエンジニアリング 5.3 |
| 17 | 通信関連 ⑩ 7.3 | 証券・投信・投資顧問 7.7 | エネルギー 7.7 | 官公庁・団体 6.2 | マスコミ 5.3 |
| 18 | 機械・プラントエンジニアリング ⑰ 7.1 | 電子・電機 6.9 | エンターテインメント 7.3 | 商社(総合) 5.8 | 農業・林業・鉱業 5.3 |
| 19 | 商社(専門) ⑮ 6.9 | 信用金庫・労働金庫・信用組合 6.9 | 電子・電機 6.8 | ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 5.4 | 鉄鋼・非鉄・金属製品 3.3 |
| 20 | 保険 ⑳ 6.5 | リース・レンタル 6.5 | 通信関連 6.5 | 銀行 4.7 | 印刷・パッケージ 3.3 |

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

0A機器・家具・スポーツ・玩具他

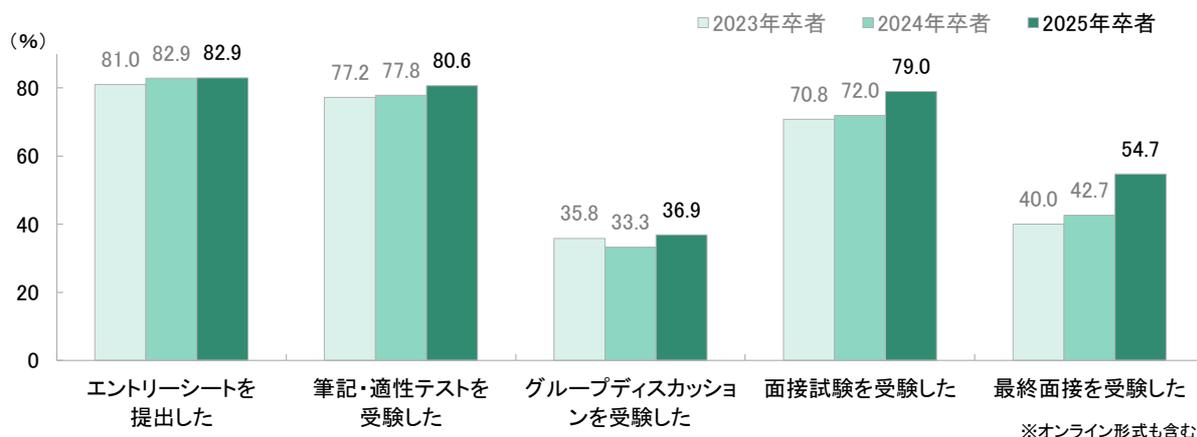
4. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況を見ていきたい。

エントリーシート（ES）を提出した学生は全体の82.9%で、8割超が提出経験をもつ。一人あたりの提出社数は前年同期を1.2社上回った（平均5.9社→7.1社）。筆記・適性テスト受験者も8割を超える。

変化が大きいのは面接試験で、3月時点で受験経験のある学生は8割近くに増加（72.0%→79.0%）。最終面接受験者は12ポイント上昇し、過半数に達した（42.7%→54.7%）。選考の後半のフェーズほど上昇幅が大きく、企業の選考のタイミングが早まっている様子がうかがえる。

<選考試験の受験状況>



<選考試験の受験社数>

| | 全体 | | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|--------------|--------|--------|------|------|------|------|
| | (前年全体) | (前年全体) | | | | |
| エントリーシート | 7.1 | 5.9 | 8.3 | 7.3 | 5.9 | 6.2 |
| 筆記・適性テスト | 5.4 | 4.6 | 6.5 | 5.3 | 5.0 | 4.7 |
| グループディスカッション | 2.4 | 2.1 | 2.9 | 2.1 | 2.4 | 1.8 |
| 面接試験 | 4.6 | 3.9 | 5.6 | 4.4 | 4.1 | 4.0 |
| 最終面接 | 1.5 | 1.1 | 1.7 | 1.2 | 1.9 | 1.4 |

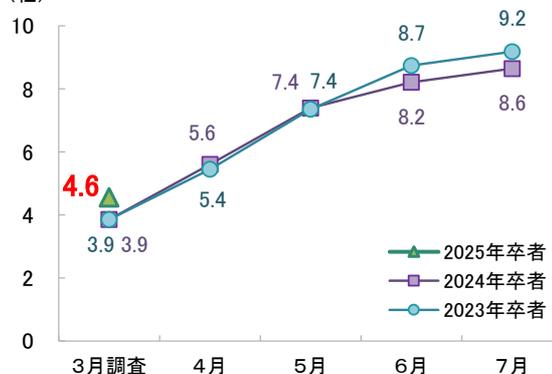
(社)

※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

【参考】 <ES提出社数の推移>



【参考】 <面接試験受験社数の推移>



5. 3月1日現在の内定状況

3月1日で内定を得ている学生は全体の43.2%。前回調査(33.8%、2月調査)からの1カ月間に9.4ポイント上昇し、就活解禁のタイミングで就活モニターの4割が内定を手にしていった。前年同期実績(32.4%)を10.8ポイント上回っており、現在の日程ルールが9年目を数える中で、早期化が一段と進行していることが読み取れる。内定企業の7割(72.0%)がインターンシップ等のプログラムに参加していた企業(グラフは次ページに掲載)。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは26.6%。前年調査(22.7%)よりやや多いが、大半は内定を得ても就職活動を継続。モニター学生全体を分母にとると就活終了者(就職先決定)の割合は11.5%(グラフは次ページに掲載)。多くの学生にとって本番はこれからと言える。

ただ、理系学生は内定率・就職決定率ともに文系に比べ高く、終了者(就職先決定)が2割に迫る(18.2%)。

(※1日以内のプログラムも含めて調査)

<3月1日現在の内定状況>

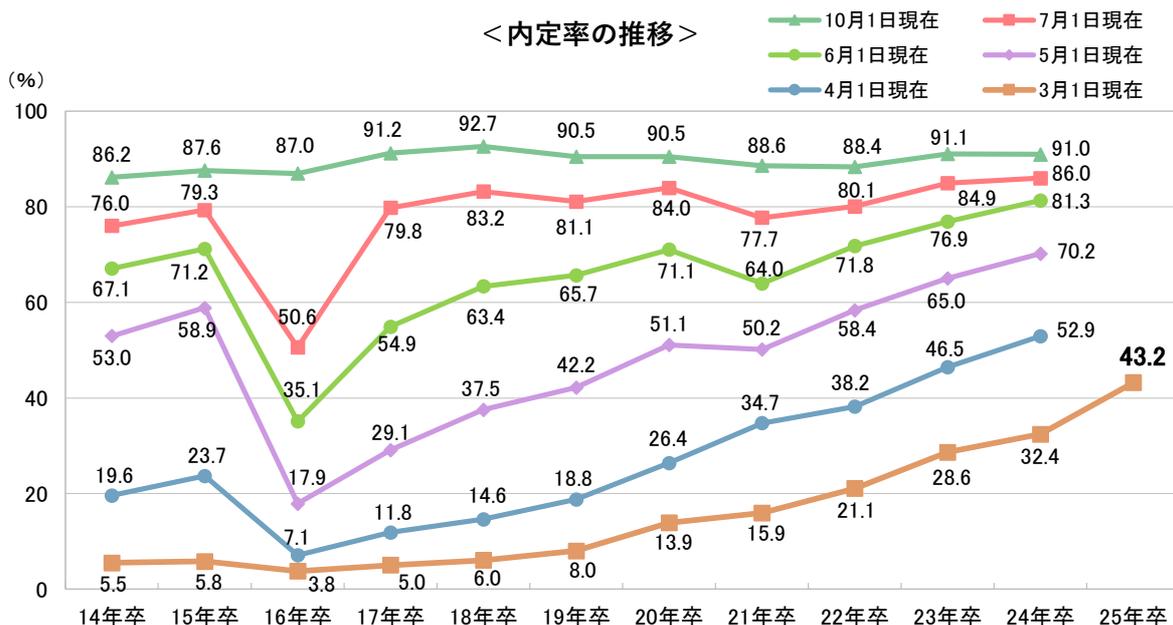
*「内定」には、内々定を含む (%)

| | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 | |
|--------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 内定あり | 43.2 (32.4) | 41.0 (29.7) | 38.3 (28.7) | 52.9 (36.5) | 44.0 (40.9) | |
| 内定なし | 56.8 (67.6) | 59.0 (70.3) | 61.7 (71.3) | 47.1 (63.5) | 56.0 (59.1) | |
| 内定者のうち | 就職先を決定し活動終了 | 26.6 (22.7) | 20.2 (15.8) | 17.9 (12.8) | 37.8 (37.1) | 34.2 (27.0) |
| | 活動は終了したが複数内定保持 | 3.0 (3.2) | 4.2 (1.8) | 1.2 (0.9) | 4.7 (4.3) | 1.4 (7.9) |
| | 進学などの理由で就職活動を中止 | 0.0 (0.2) | 0.0 (0.0) | 0.0 (0.0) | 0.0 (0.0) | 0.0 (1.6) |
| | 就職活動継続 | 70.5 (73.9) | 75.6 (82.5) | 81.0 (86.3) | 57.4 (58.6) | 64.4 (63.5) |

(社)

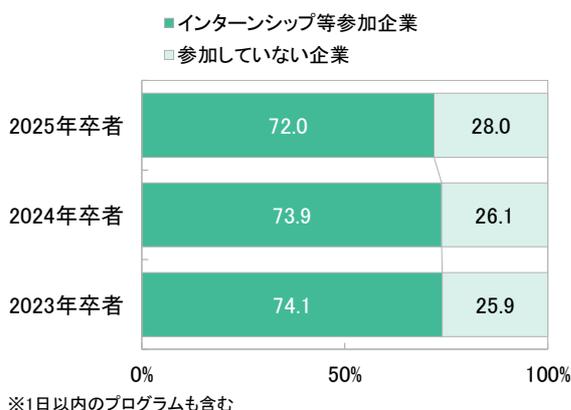
| | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 内定社数/平均 | 1.7 (1.6) | 1.7 (1.6) | 1.7 (1.6) | 1.8 (1.6) | 1.9 (1.7) |

※()内は前年(3月1日現在)の数値

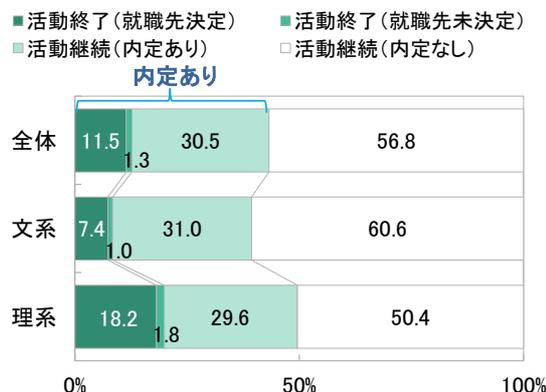


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~25卒は6月

<内定を得た企業の内訳>



<活動状況の分布>



内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。冒頭で確認した志望業界1位の「情報処理・ソフトウェア」が、内定業界でも1位。文理問わず多くの学生が志望し、実際に多くの内定が出ている様子が見て取れる。2位の「調査・コンサルタント」も文理で同順位。文系の3位は「人材サービス・人材紹介・人材派遣」で、理系の3位は「電子・電機」。

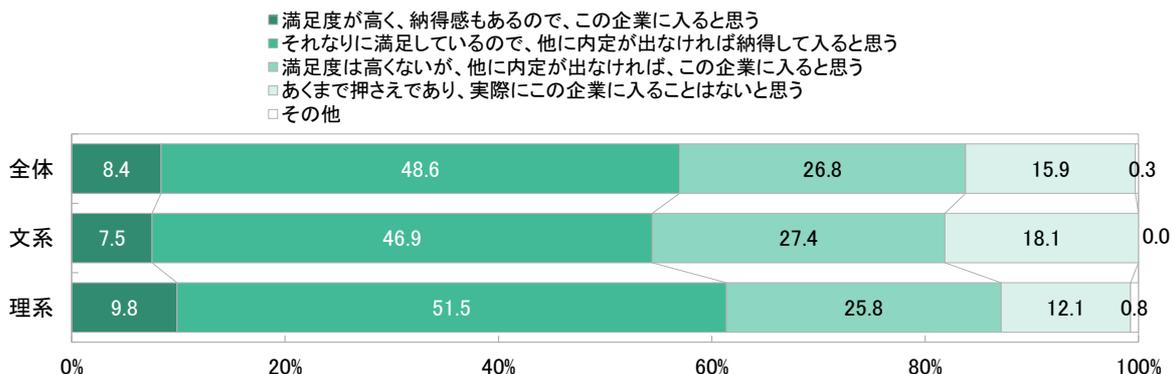
<内定を得た業界(上位5業界)>

| | 全体 (%) | | | 文系 (%) | | | 理系 (%) | | |
|---|----------------------|------|--------------------|--------|--------------------|------|--------|--|--|
| 1 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① | 26.2 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト | 24.7 | 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト | 28.1 | | | |
| 2 | 調査・コンサルタント ② | 21.5 | 調査・コンサルタント | 23.0 | 調査・コンサルタント | 19.5 | | | |
| 3 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 ⑤ | 14.4 | 人材サービス・人材紹介・人材派遣 | 17.4 | 電子・電機 | 17.2 | | | |
| 4 | 建設・住宅・不動産 ③ | 14.0 | 建設・住宅・不動産 | 13.2 | 建設・住宅・不動産 | 14.9 | | | |
| 5 | 電子・電機 ⑦ | 9.3 | その他サービス | 12.2 | 自動車・輸送用機器 | 14.5 | | | |

※○の中の数字は前年同調査の全体順位 ※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

内定を持ちながら就職活動をしている学生(全体の30.5%)に、内定企業をどう位置づけているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めているのは1割未満(8.4%)。「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」という回答が約半数で最も多い(48.6%)。まだ解禁直後であり、これから多くの企業に接し、選考を受けていく中で自分に合う企業を見定めたいと考えているのだろう。

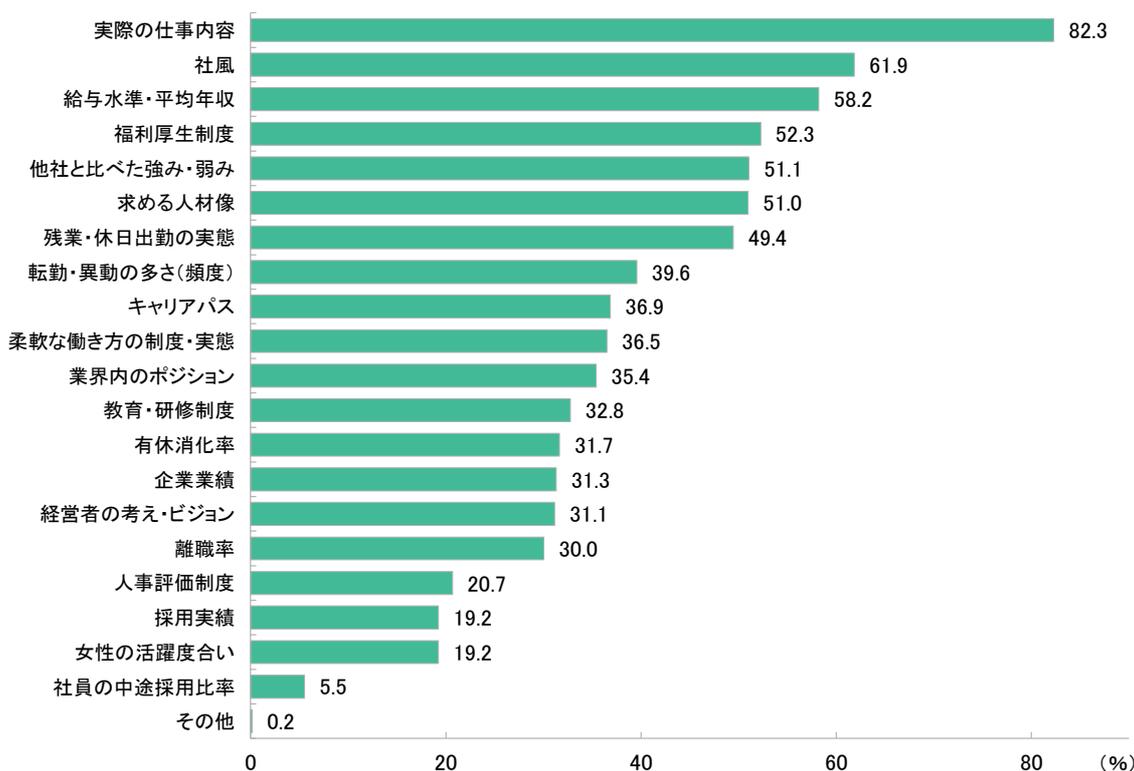
<内定を得ている企業の位置づけ>



6. 企業研究を行う上で知りたい情報

企業研究を進める上で知りたい情報を尋ねた。最も多いのは「実際の仕事内容」で、8割超(82.3%)が選び、ポイントが集中している。次いで「社風」(61.9%)が続く。現場社員との対話を通じて、具体的な仕事内容の理解を深めたり、社風を感じ取ったりすることで、自分に合う企業かどうか見極めたいということだろう。また、「給与水準・平均年収」「福利厚生制度」「残業・休日出勤の実態」などの条件面に加え、「他社と比べた強み・弱み」「求める人材像」などエントリーシートや面接などを見据えた項目も上位に入る。

<企業研究を行う上で知りたい情報>



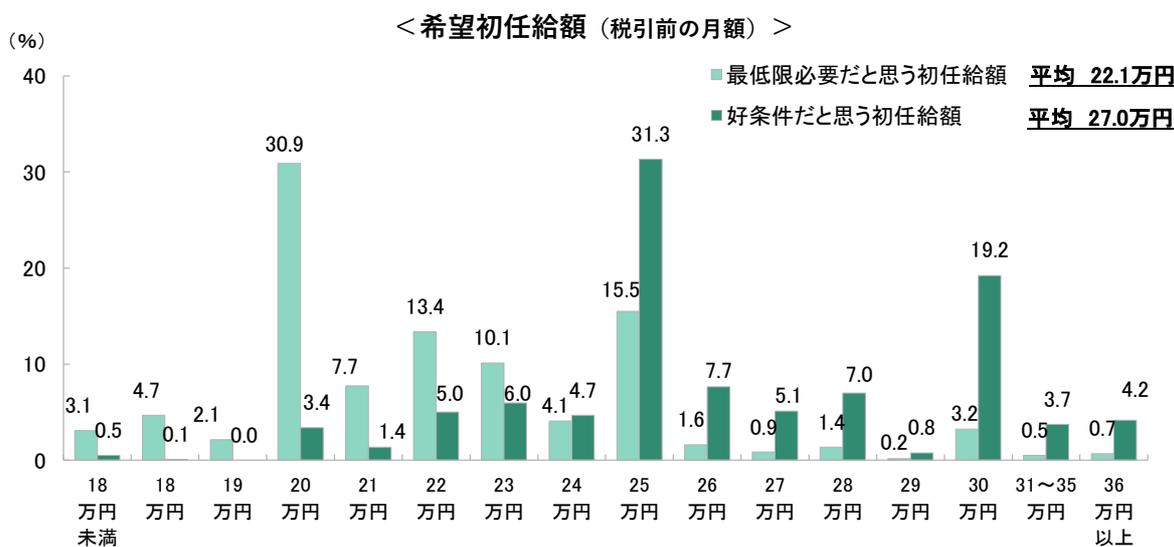
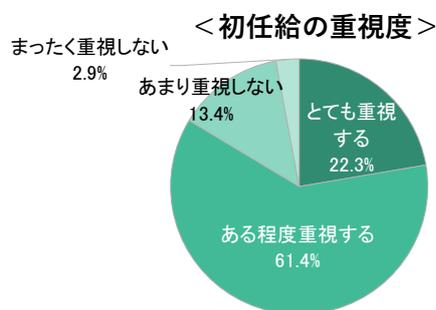
■企業研究を行う上で具体的に知りたいこと

- 実際の業務内容について詳しく知りたい。また、働くイメージを明確にするために、福利厚生や残業の実態、給与水準についても詳しく知りたい。 <文系女子>
- 内定を得るための企業研究という意味で、業績や事業内容を知りたいと感じる。また、内定を得た後、企業を自分が選ぶ立場になった場合に、働き方や給与・評価制度を知りたいと思う。 <文系男子>
- 業績・他社と比べた強み・業界内のポジションを調べて、その会社の将来性が見込めるかを確認したい。 <理系男子>
- 入社3年までの社員の方からのリアルな声が聞きたい。 <文系女子>
- 実際に自分のキャリアプランに近い経験された方がいるか、自分の理想のキャリアが達成できそうか(異動や産休育休後の復職、福利厚生など)。 <理系女子>
- 勤務地や転職の可能性、住宅補助・家賃補助関連の福利厚生など、生活面に大きく関わる情報。 <理系男子>
- ジョブローテーションはどのように行われるのか、やりたい職種にはどのようにたどり着けるのかなど。 <文系男子>
- 風通しがよく、相談などをしやすい環境があるかを知りたいです。 <理系女子>
- 勤務地や給与については必ず知りたい。社内の女性の割合や働きやすさについても知りたい。 <文系女子>

7. 希望する初任給額

採用難や物価上昇を背景に初任給の引き上げを行う企業は増加傾向にあるが、就職先企業選びで初任給をどの程度重視するかを尋ねた。「とても重視する」という人は22.3%で、「ある程度重視する」(61.4%)を合わせて8割以上が意識していると回答(計83.7%)。重視すると回答した学生からは、働くモチベーションに影響する、自分の生活を安定させたいという声のほか、企業の財務状況や社員への姿勢を判断する材料にするという意見も見られた。一方で、初任給よりも平均年収を重視する、収入よりも仕事内容や働きやすさを重視するという学生も少なからずいるようだ。

続けて、この金額より低いと応募を見送るとする「最低限必要だと思う額」と、「好条件だと思う額」に分けて、各種手当を含む月額を尋ねた。「最低限必要だと思う額」の平均は22.1万円。分布をみると、20万円との回答が最多(30.9%)。「好条件だと思う額」は平均27万円、最も多いのは25万円(31.3%)、次いで30万円(19.2%)。最多回答・平均とも「最低限必要だと思う額」より約5万円高い。



※基本給だけでなく住宅手当などの各種手当も含んだ金額として調査

■企業選びで初任給を重視する／しない理由

- 給与の高さが仕事のモチベーションに繋がる。 <文系女子>
- 物価が上がっているため、生活するために重要。 <文系男子>
- 奨学金の返済があるため、ある程度の収入が見込める企業でないと生活が難しいと考えている。 <理系女子>
- 初任給が高い方が、今後の昇給の幅も広いように感じる。 <理系男子>
- 賃上げが進んでいる中で、初任給を上げている企業は体力的に余裕があると感じる。 <文系女子>
- 第一優先は自分のやりたいことに合っているかで、志望度が同程度なら初任給を重視する。 <文系男子>
- 伸びしろや平均収入の方を重視している。 <理系男子>
- 給料よりも休日日数や残業時間を重視している。 <文系男子>